

会派調査(研修)報告書

NO. 1

平成 29 年 11 月 20 日

胎内市議会議長

森田 幸衛 様

(報告者) 会派名 日本共産党

代表者名 丸山孝博

調査・研修参加者 丸山孝博
羽田野孝子

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修日時	自 平成 29 年 11 月 13 日 至 平成 29 年 11 月 15 日 2泊 3日 (3日間)	調査・研修場所	長崎県松浦市 長崎県西海市 佐賀県伊万里市
調査・研修事項	長崎県松浦市 ①体験型旅行事業について ②地産地消ブランド促進計画について 長崎県西海市 ①子育てあんしん応援事業について 佐賀県伊万里市 ①市民図書館の運営について		
調査・研修出席者(参加者)	今回の調査研修は、志政会とみどりの未来との合同によるものである。 参加会派及び人数は、以下のとおり。 志政会とみどりの未来 5 名、日本共産党 2 名、合計 7 名		
相手方(対応者)	長崎県松浦市 議長 高橋勝幸 食と観光のまち推進課体験交流担当参事 福守剛 食と観光のまち推進課 課長補佐 樫山まちこ 議会事務局 局長 石黒修子 議会事務局主事 菅原剛史 4 名		
相手方(対応者)	長崎県西海市 厚生常任委員長 朝長隆洋 保健福祉部こども課長 浅山康成 保健福祉部こども課係長 富永寛雅 議会事務局 局長 平岩博司 佐賀県伊万里市 伊万里市民図書館長 杉原あけみ		

調査の結果または概要

●長崎県松浦市

平成18年1月1日に、1市2町が合併。人口約23,400人、面積130.38k㎡。長崎県北部に位置し、平安時代に活躍した松浦党発祥の地で、東シナ海を望む歴史ある街である。市議会定数は、18人。29年度一般会計当初予算額 188億5千万円。

◎体験型旅行事業と地産地消ブランド促進計画について

豊かな自然や地理的環境を効果的に活用した農林水産業が営まれており、日本有数の水揚量と高い品質をあわせもつアジやサバ、日本一の生産量を誇る養殖トラフグやぶどうやメロンなどの農産物も豊富である。ここに、一般社団法人まつうら党交流公社による「ほんなもん体験」として、受入農家約500軒が全国から体験学習を受入ており、27年度は159校28,500人。定住人口はすぐには増えないが、交流人口を増やすことに力を入れている。

また、地産地消ブランド促進計画については、農林水産業の一大産地であることを再確認し、魅力的な産地づくりとして、①産地直売②学校給食③農水産物の生産・加工④食育活動⑤観光事業⑥食のイベント⑦アンテナショップなどを総合的に展開している。

●長崎県西海市

平成17年4月1日に、周辺5町が合併。人口約28,600人、面積241.59k㎡で、胎内市と同規模である。長崎市と佐世保市の間に位置し、西岸はリアス式海岸と大小の島がある。柑橘類や水産業が盛んで温州みかん、シマフグやゆで干し大根などが有名。議員定数は18人、29年度一般会計当初予算額 187億8,570万円。

◎子育てあんしん応援事業について

65歳以上の割合は35.0%で、15歳未満の割合は11.4%であり少子高齢化が進行している。27年10月に人口ビジョンを策定し、2060年の人口を3万人とすることを目標に掲げた。そのなかで子育て支援においては「生涯にわたり活躍できるひとづくり」を基本目標に、保育料を最高3分の1にまで軽減、2人目以降は無料、また、医療費助成を入院・通院とも中学卒業までとして、障害児保育の保育士を手厚くしている。

さらに、親育ちプログラム事業として高校生を対象に幼児ふれあい体験を実施、放課後児童クラブ、特定不妊治療費助成事業などを行ってきた結果、合計特殊出生率が、25年には2.17（県1.64国1.43）まであがった。

●佐賀県伊万里市

佐賀県の西北部に位置し伊万里湾に天然の良港を擁している。江戸時代には「古伊万里」の積出港として栄え、伊万里焼、伊万里牛、伊万里梨などの特産品も有名である。

人口約55,700人、面積255.25k㎡、議員定数は24人、29年度一般会計当初予算額248億700万円。

◎市民図書館の運営について

1995年7月7日の建設時の目標が「伊万里をつくり 市民とともにそだつ 市民の図書館」まさに、市民協働で作上げた施設。図書館を行政とともに、車の両輪となって支える市民ボランティア組織「図書館フレンズいまり」が、知の拠点をしっかりサポートしている。子供コーナーには授乳室と幼児用トイレが完備され、「伊万里が学」という名で紹介されている市の情報、市議会や市の審査会等に関するコーナーなどもあり、地域関連の情報がかなり充実しているのも特徴である。

調査の所見・感想

●長崎県松浦市

◎体験型旅行事業と地産地消ブランド促進計画について

1日最大1,700人の受入が可能な14団体、約500軒、約90種類の体験プログラムを整えている。平成13年～平成20年までの財政支援は、長崎県が17,040千円、松浦市が97,200千円、周辺市町が4,810千円であるが、平成21年度からの支援はゼロ円であるとはすばらしい。年金者による小遣い稼ぎにもなっているとのこと。経済効果は、約4億円という効果である。

当市でも、子どもの民泊体験を実施しているが、高齢化や理解不足などから、市職員が必至になって受入農家を確保しているが、これは本来のやり方ではない。もう一度見直し、位置づけを明確にした取り組みが必要であることを感じた。

また、地産地消ブランドの促進についても当市は、地産農産物も優れた農家も多く、これまでの生産基盤としての機能に加え、多くの人を訪れ、住みたくなるような魅力的な産地づくりのため知恵を出し合えば、消費拡大とそれに伴う生産量の増大により地域を丸ごと活性化できる要素はあるのではないかと思った。

●長崎県西海市

◎子育てあんしん応援事業について

少子高齢化が進み、全国的に人口減少が避けられないなかで、将来の人口ビジョンを現在よりも多い3万人にしたことは驚きである。

これまでの子育て支援における効果はあったが、まだまだ経済的負担の軽減を求める声が多いということである。今後の課題としては、子連れで出かけられる場所や安心してかかる医療機関など多岐にわたることは共通した課題である。さらに働き方改革や他の親子とのふれあいの場などの整備も必要である。当市においてもニーズに合わせた子育て支援が求められる。

●佐賀県伊万里市

◎市民図書館の運営について

市民協働で作り上げた施設。そしてそこに、しっかりと魂が入っていることがすばらしい。「市立図書館」ではなく「市民図書館」という意味が理解できた。職員18名(司書11名)、蔵書約38万冊、28年度登録者41,949人、率75.03%、1日の貸出1,631。約400人のボランティア組織がしっかり支えており、役割も明確にしている。合言葉は「協力と提言」。まさに、市民協働が貫かれていることが、あたたかみを感じとれる。国立国会図書館から表彰されているだけある。全国からの視察も多く27年度は、205団体、1,230人にのぼる。また、巡回車「ブックン」2台が大活躍している。さらに「家(うち)読」や朝の読書活動などを推進している。全国公募の5代目の杉原館長さんいわく、最近の安上がり行政として「図書館を民間委託するようなことはありません」と、キッパリ。そこには「図書館は人づくり・まちづくりを支える成長する施設」という姿勢が貫かれている。大変すばらしいことである。図書館に係る費用は、約1.3億円である。

井畑胎内市長の「市民協働」の理念も、こうした取り組みから大いに学び、人づくり・まちづくりを推進する必要があることを痛感した。大変参考になる研修になった。